

福岡市におけるインフルエンザの流行状況(2007 年度)

保健科学部門 ウイルス担当

福岡市における 2007/2008 シーズンのインフルエンザ様疾患の集団発生は 2008 年 1 月 28 日(第 5 週)に始まり、2006/2007 シーズンとほぼ同じスタートであった。また、全国の集団発生集計結果(図 1)より遅く、8 週目にピークを認めた。福岡市内における集団発生は計 37 施設で発生し、患者数は 637 人(表 1)と、この 5 年間の平均 (861 人)を下回った(表 2)。

感染症発生動向調査において、本市における 2007/2008 シーズンのインフルエンザの流行は 2006/2007 シーズンより早く、年が明けたあたりから患者が増加し始めた。流行のピークは集団発生とほぼ同時期であり、2008 年 9 週目と 10 週目に明確なピークが認められ、その後は終息した(図 2)。

表 1 集団発生事例における施設別発生状況

施設	発生施設数	在籍者数	患者数	休校数	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園	14	548	195	2	3	9
小学校	17	648	315	0	2	15
中学校	5	218	108	0	1	4
その他	1	40	19	0	0	1
計	37	1,454	637	2	6	29

表 2 この 5 年間の年度別集団発生患者数

年度	2003	2004	2005	2006	2007
患者数	571	722	295	2,080	637

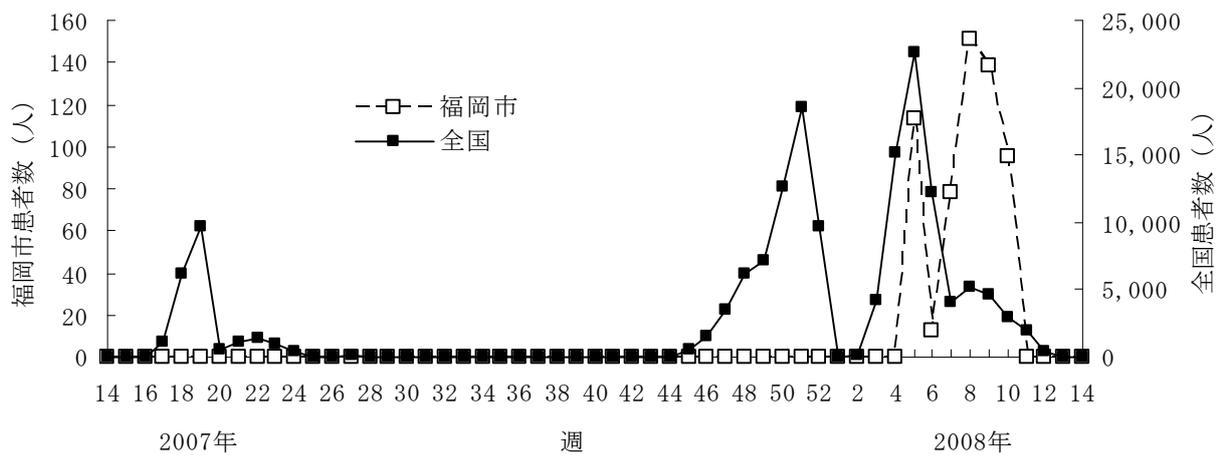


図 1 インフルエンザ様疾患集団発生患者数

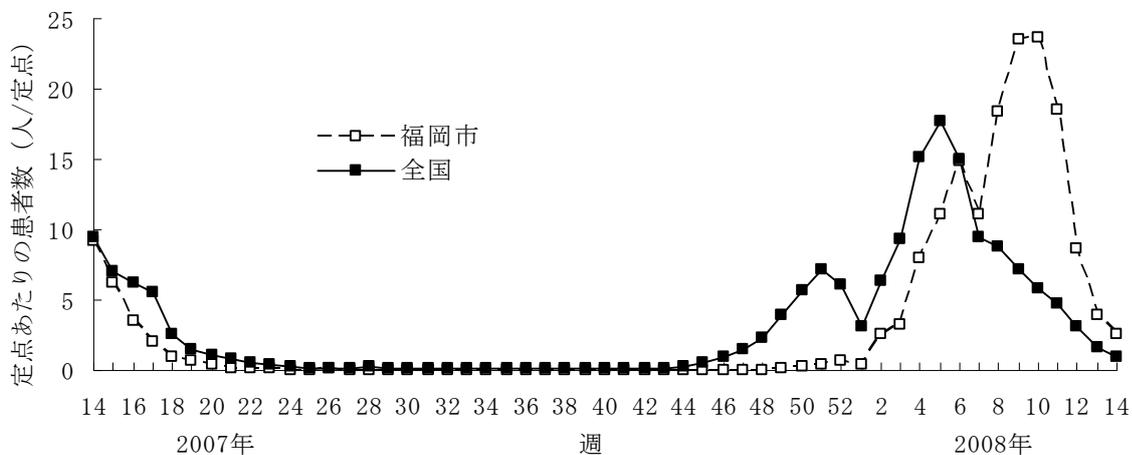


図 2 定点あたりのインフルエンザ患者報告数

当所における感染症発生动向調査からのウイルス分離は、AH1型が20株、AH3型が17株、B型が2株であった。前年度はAH1型、AH3型、およびB型の流行がみられたが、今年度はAH1型とAH3型の流行であった

(図3).

なお、分離株の同定には国立感染症研究所配布のフェレット感染抗血清および羊免疫血清を用い、HI試験によって判定した。

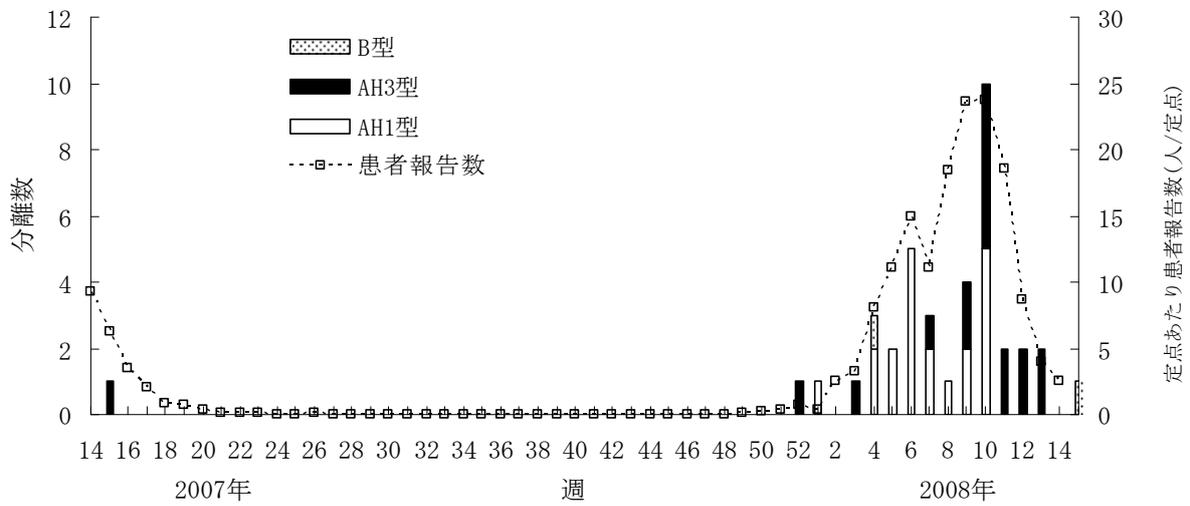


図3 福岡市における定点あたりのインフルエンザ患者報告数とウイルス分離数